

畜産研究所の施設整備について

畜産研究所 所長 余谷 行義

皆様には、畜産研究所の運営・推進につき、平素から格別のご支援ご協力を賜り、心からお礼申し上げます。畜産研究所は、三重県における畜産分野の研究を担い、一貫して「産業としての畜産を盛んにする」、「循環型社会の実現に貢献する」、「県民の健康・安全・安心に貢献する」ことを基本目標とし、本県の畜産業発展と畜産農家の経営安定による安全・安心な畜産物の提供により、県民の健康・安全・安心に寄与するための研究に取り組んでいます。

このような中、畜産研究所では平成16年度から21年度までの6カ年計画で畜舎等の施設整備を進めており、平成18年度には大家畜エリア施設（乳牛・肉牛の畜舎等）が完成し、稼働しています。

このたび、本整備事業後半の核となる中小家畜エリア施設（養豚・養鶏の畜舎等）が完成し、12月から使用を開始します。新しい中小家畜舎は、給餌・除ふん等がシステム化され、試験データの収集が容易となり試験精度の向上が期待されます。また、畜舎をウインドウレス（無窓）化するとともに、脱臭装置を介して換気するなどの防臭対策を十分に講じています。今後は、平成21年度に見学者ふれあい施設などの整備を



畜産研究所中小家畜エリアの全景写真

行い、本施設整備事業が全て完了する見込みです。

施設整備により実現した新たな研究環境のなかで、今後一層の成果が求められます。畜産業のあるべき姿を見つめながら、情勢の変化に機敏に対応できる体制を整え、研究成果を創出していきます。また、昨年4月の組織改編により、農水商工部に所属することとなり、行政・普及とのより一層密な連携が可能となったことから、迅速な成果の普及を図っていきます。引き続きご支援ご協力を頂きますようお願い申し上げます。